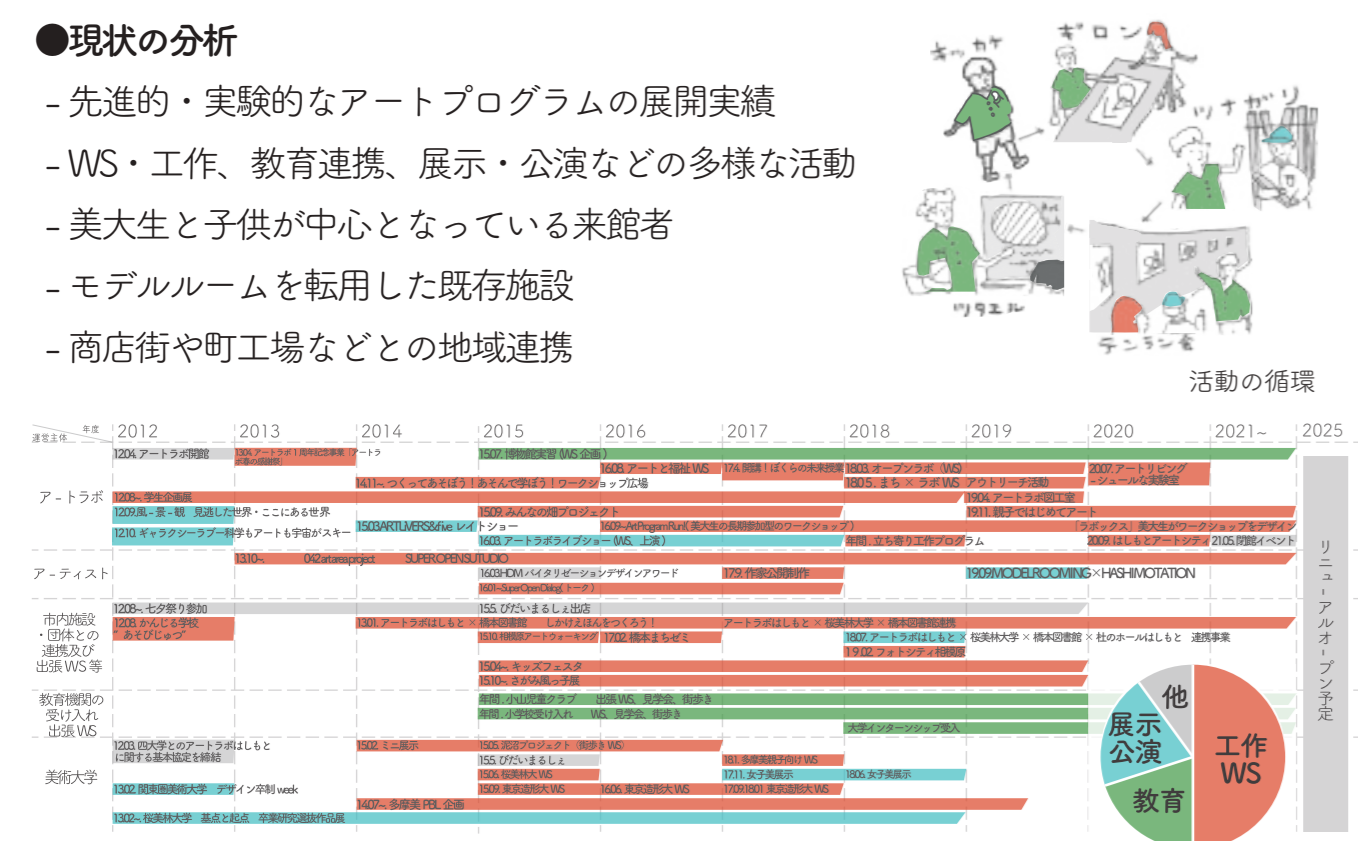


1. アートラボはしもとのこれまでとこれから



●提案

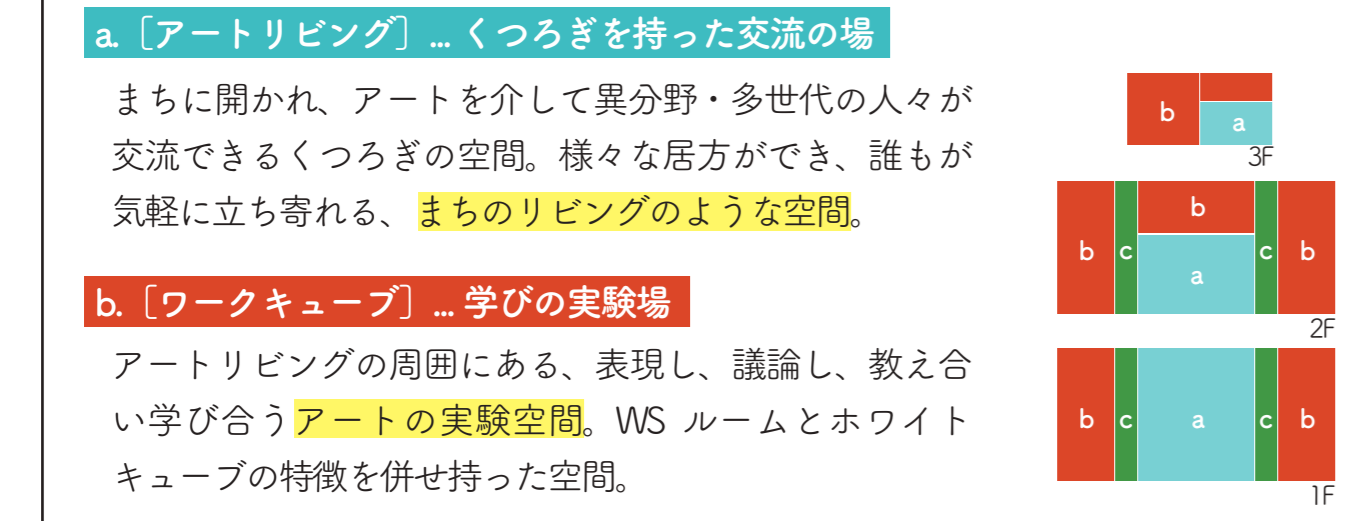
設計チームで独自に分析したアートラボはしもとの活動年表と割合

橋本では「アートラボ」という全国でも珍しい参加型美術施設をつくり、多岐にわたる活動を醸成してきました。10年間既存施設を試行錯誤して使ってきた中で「アートラボにはどのような機能と空間が必要なのか？」が見えてきています。これまでの活動を振り返り、「アートラボ」という施設ならではのフレキシブルな空間システムを提案します。ここで言うフレキシブルとは、**様々なしつらえの空間を用意し、活動に合わせて選り取り使っていくこと**です。さらに、これまで培ってきた地域とのネットワークを再構築し、**地域資源に誰もがアクセスできる場をつくり繋げ広げていくこと**を目指します。

2. 多様な活動を受け入れる空間システム

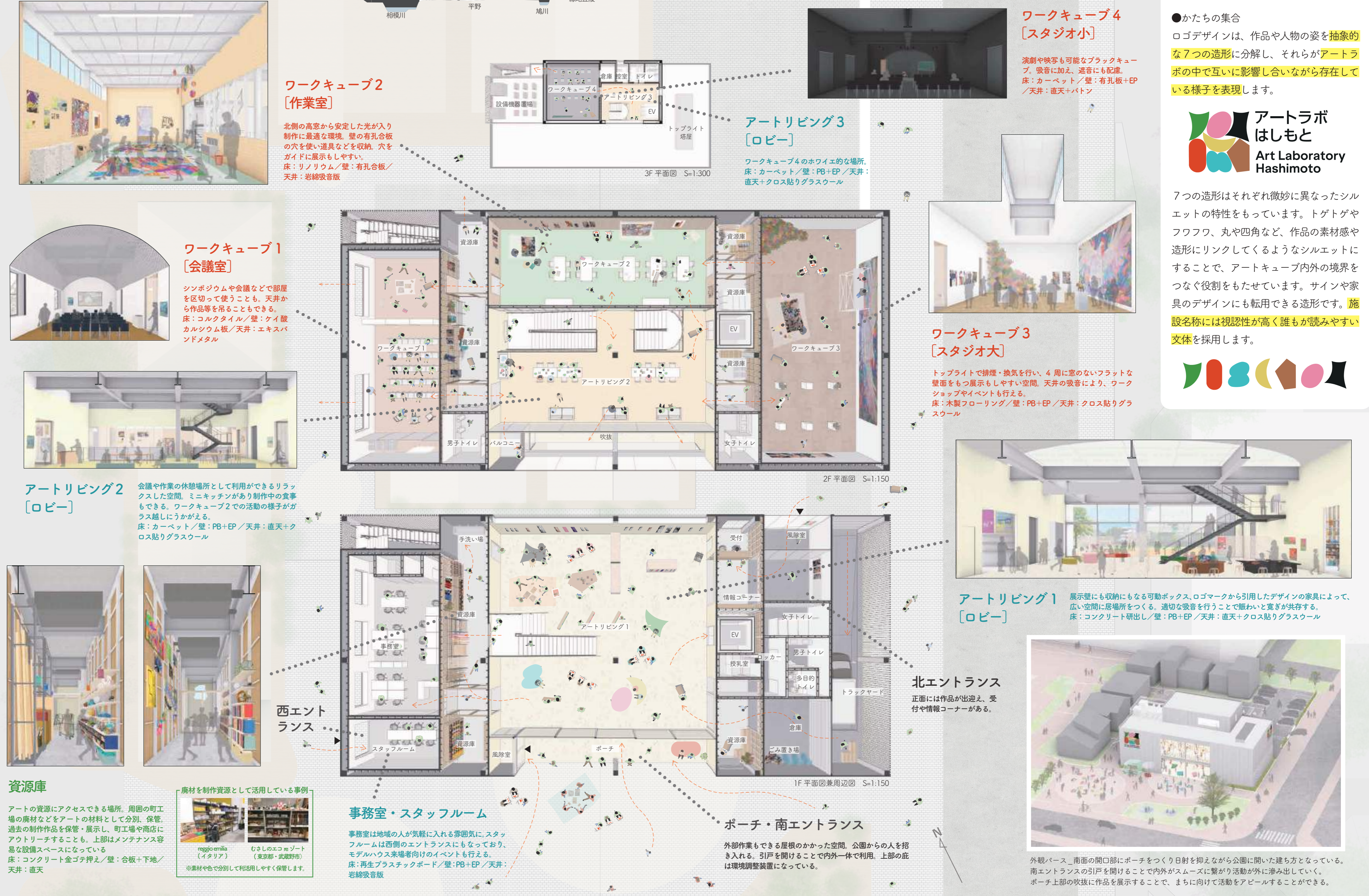
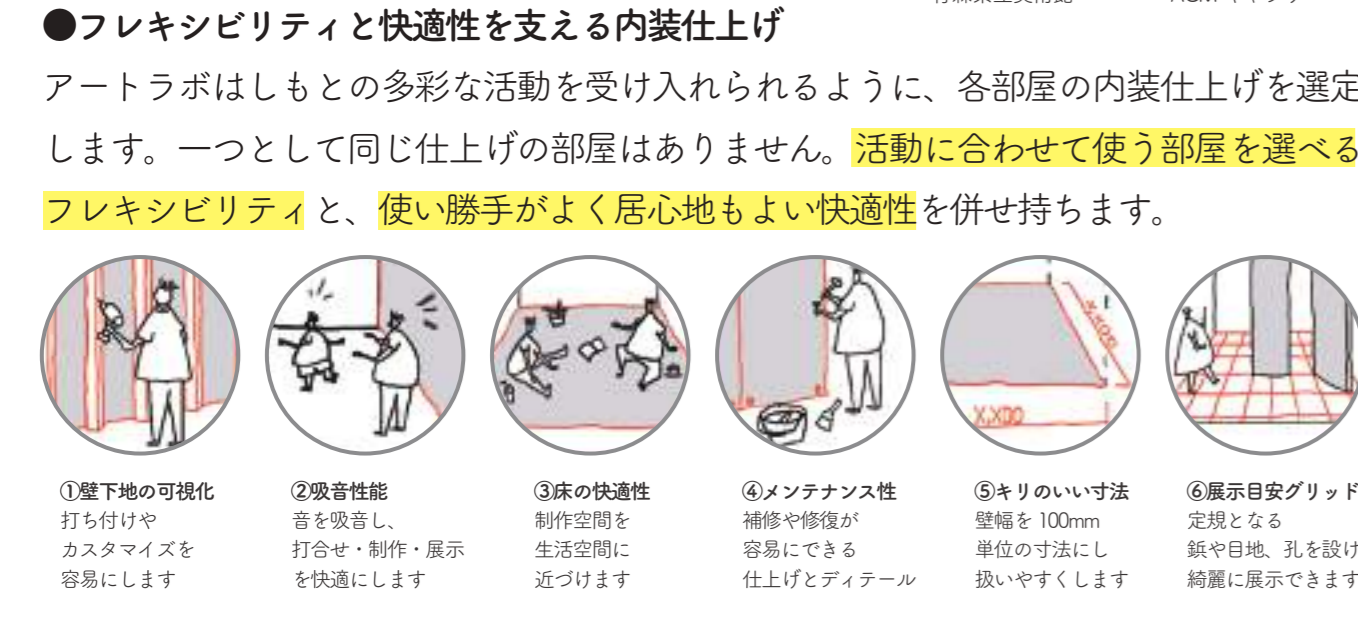
●3つの部屋からなるプラン

くつろぎを持った交流の場「アートリビング」を中心に、学びの実験の場「ワークキューブ」が周りを囲みます。それらに挟まれた隙間には様々な資源が保管される「資源庫」を設けます。

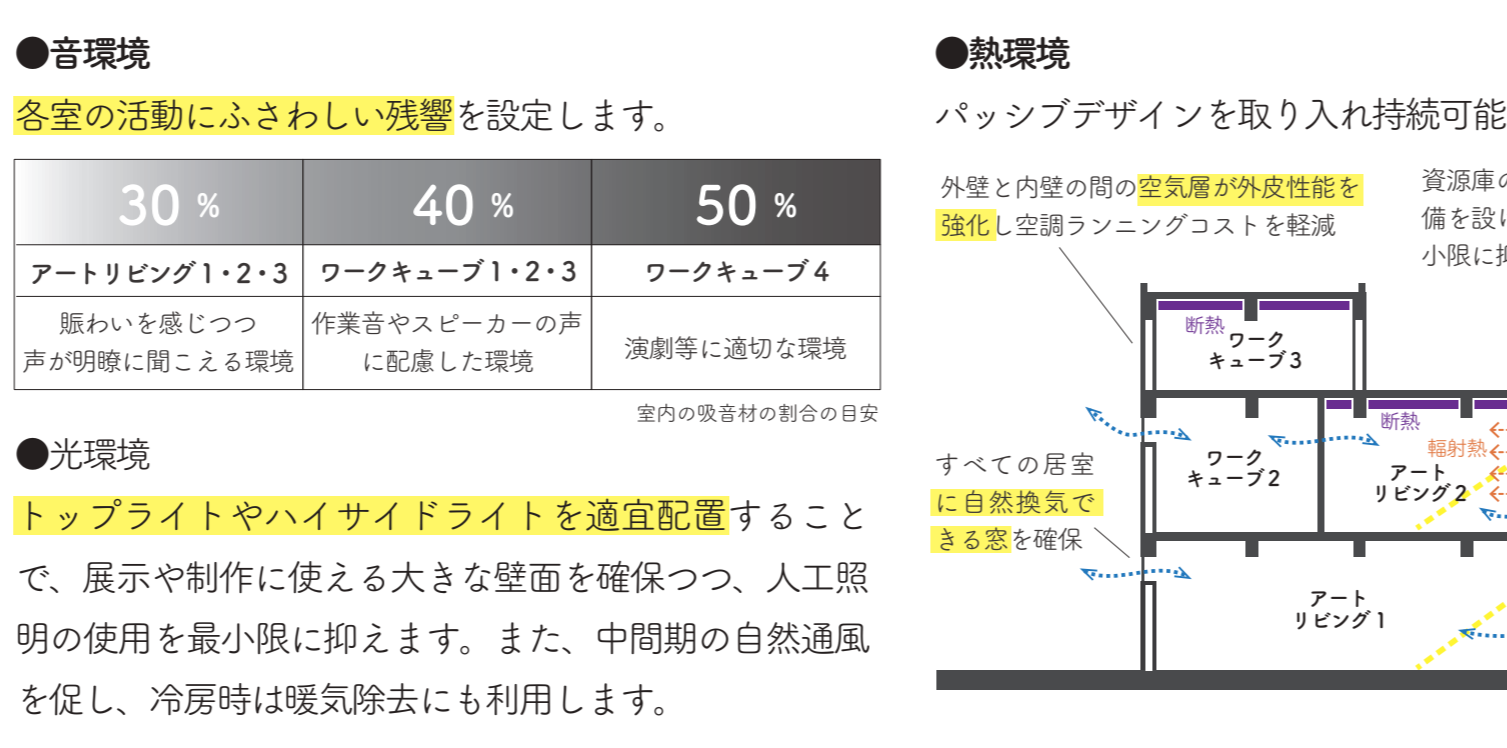


●美術施設的设计実績からの学び

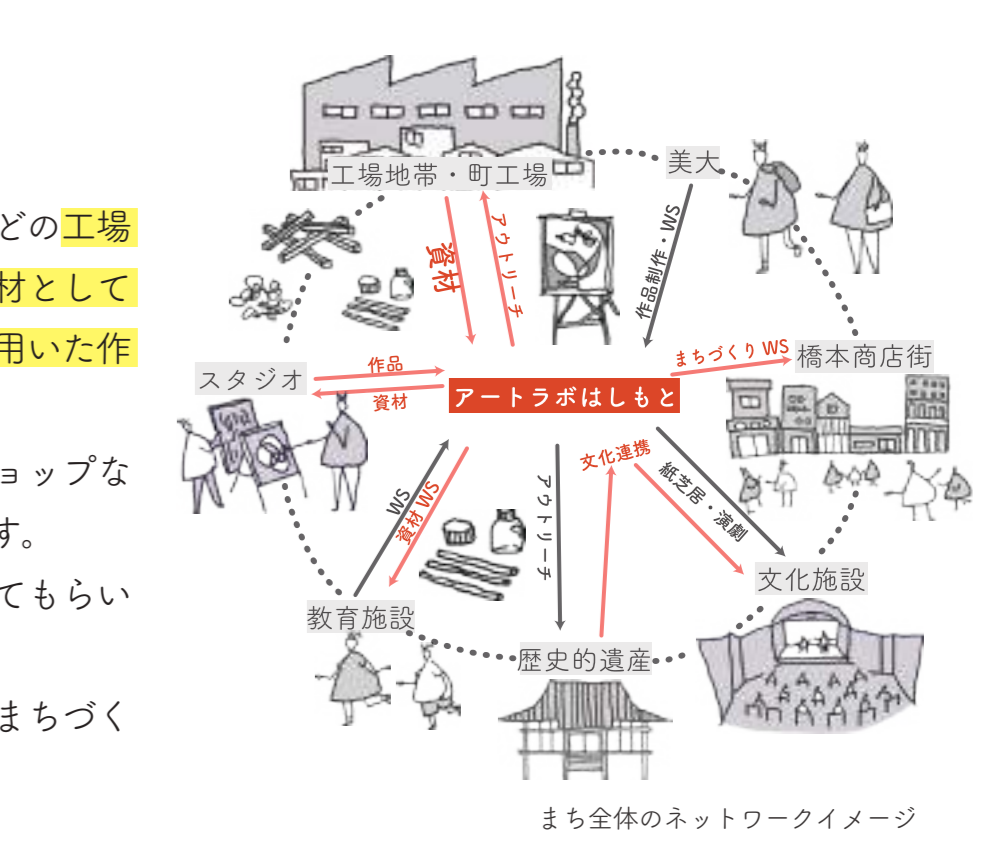
私たちのチームは、青森県立美術館、小山登美夫ギャラリーなどの多くの美術施設を設計した実績があり、WS 室や展示室の使い勝手を熟知しています。それらの経験を**仕上げやディテールの設計に取り入れ**、誰もが使いやすい空間をつくりまします。



3. 持続可能な運営を可能にする音・光・熱の環境計画



4. 公園・民間施設との関係とまち全体とのネットワーク



5. 親しみやすいVI

●かたちの集合

ロゴデザインは、作品や人物の姿を**抽象的な7つの造形に分解**し、それらが**アートラボの中で互いに影響し合いながら存在している様子**を表現します。

